



学部や志望校を決めた時期と、決め手は？

則岡：高2の終わり頃の模試の結果を見て、なんとなく神戸大学かなと決めた感じです。理学部と工学部で迷ったんですけど、工学部の方が就職に強いと聞いたし、より応用的なことができると思ったので決めました。学科は趣味でパソコンを触ったりする時にも活かせるかなと思って情報学にしました。

山田：僕は物理が苦手だったから化学系の進路がいいのかなと迷っていました。でも、小さい時から飛行機とか航空機系が好きで、その開発をしたいなど。それで有名な名古屋大学に行きたいと決めたのが高3の夏くらい。でも共テで思うように得点できなくて。共テの後の渋谷先生との面談で、いろいろ候補を出してもらって一緒に考えて、持ち帰って。5日間くらい悩んで広島大学に決めました。

土井：僕は、大学自体は高2の半ばくらいに別のところに決めていて。で、共テが終わってから点数に応じて決めた感じです。京都工芸繊維にしたのは、受験科目と、英語が強いところなんです。今英語がやりたくて。機械工にしたのは、中学時に部活でロボットを作っていたのがずっと心に残っていたからです。高1の初めは渋谷先生にも国際系って言っていたんですけど、英語しか残らないかなと思って。工学をやりながら好きな英語の勉強をした方がいいかなと考えて変更しました。

けど、理解しないまま問題演習ばかりしていて。分からないからすごいしんどかった。

山田：僕は物理の公式が覚えられないのがしんどかった。結局2月末まで覚えられなくて。

土井：僕は11月頃。共テに向けて勉強する時期で、嫌いな科目もやらないといけないうのが結構しんどかったです。だから好きな英語を休憩としてやるようにしていました。

山田：僕もやった、サンドイッチ。あと、二次の勉強がしんどかった。共テの勉強だと点数が出るから伸びているのが分かってモチベに繋がってたんですけど。二次の勉強って過去問を解いても伸びている感じがなくて。やる気がでなかった。その時は、勉強している人の隣ならやる気が出るかなと思って友だちを誘って勉強しました。

土井：あと、推薦で合格した僕が言うのもあれだけど、推薦組に先に抜かれるのはめっちゃくちゃしんどかった。共テ前、年末とかに決まる推薦の子たち。僕は、共テ終わってから二次までの間に発表があるパターンで。共テの勉強がしんどい時に友達が抜けていくのはきつかったですね。でも共テが終わったら推薦の発表は多少気になりつつも、二次の勉強は結構できたかな。もともと二次を受ける気満々で二次の英語も内容も好きだったから。二次の対策を全然やっていない状態で推薦の結果の後に始めるっていうのは怖かったです。

しんどかったことは？それをどう乗り切った？

則岡：勉強方法が分かってなくて、高3の夏休みの間は重要問題集(数研出版)をやってたんです

GES・Academy Campusで印象的だったことは？

則岡：僕は提出物を出してないとかでいろいろ怒られるタイプなので、学校では気軽に先生に話



進学先

京都工芸繊維大学
 工芸科学部
土井 太稀さん
 向陽高校



進学先

神戸大学
 工学部
則岡 諒宇さん
 向陽高校 バトミントン部



進学先

広島大学
 工学部
山田 虹輝さん
 向陽高校 バトミントン部

インタビュアー

渋谷勇太
 (AC ターミナル校カウンセリングスタッフ)

しかけるってことはしなかったんですけど、GESもACも、先生になんでも聞けたのですごく助かりました。

土井：GESもACも同じ学校の生徒が多くて。それが学校の延長みたいな感じで良かったと思います。受験期は特に自習室も学校帰りにみんな当たり前のように来てて。一人だとしんどかったと思うけど、みんなが来てたからすごく良かったと思う。

山田：他は『チャレ勉』。ACでもチャレ勉でテスト勉強してた。あと、ACの授業の『ハイレベル数学』。レベルも高いし楽しかった。

則岡：しんどかったけど、楽しかったよな。

土井：僕は高2までは、ひたすらついていった感じ。でも予習ができていたから高3になって楽になった部分がいっぱいあった。

則岡：塾の授業の時は完全に理解できなくても、後で学校で授業を受けた時に生きてるって思うことがあった。学校の授業の理解の助けになっていたことが結構あった。

山田：英語は、僕は『アドバンス英語』で。文法をほとんど理解していない状態だったけど、吉田先生が丁寧に一から教えてくれたのがすごい役に立ったと思います。

土井：『ハイレベル英語』は映像を使った授業とかもあって。ネイティブの考え方とかを教えてくれた。日本語で英語を学んで感じてじゃなくて、英語そのものを理解する、習得する、という感じだった。英語の面白さを伝えてくれていた気がする。

則岡：英語の問題を解く時って、文法や単語の知識ももちろんいるんですけど、英語の脳ができてないどうしようもない。その1単語1文法だけわかって、意味を読み取れないってことがすごくあると思うので。学校の授業だけじゃできないようなことを『ハイレベル英語』ではいろいろ伝えてくれた。英語そのものを理解している感じになって、やる気にもなったし、点数につながったと思います。

山田：あと、長沼先生の国語。あれはよかった。

2人：うん。よかったよな。

山田：古文漢文は苦手。でも長沼先生の授業のやり方や覚え方が自分にはすごく合ってたかなと思います。

土井：僕も最初は国語、特に古典は苦手だったんですけど、長沼先生の授業のおかげで最終的に共テの得点源になりました。

則岡：学校の国語の授業って、点を取る方法とかは教えてもらえない。もし長沼先生の授業を受けてなかったら、国語の受験勉強のやり方、問題の解き方が分からなかった気がする。国語って参考書の解説とかを見ても、その選択肢が答えになる理由を無理やり作っている感じがして、書き言葉で固い感じだし、あんまりピンとこなくて。でも対面の授業だと、先生が話し言葉で教えてくれるから、理解しやすかった。長沼先生の授業は絶対受けた方がいい。受けなかったらやばかったと思います。

山田：授業が面白いよな。ずっと受けてても飽きない感じでやってくれて良かったよな。

土井：あと、『速読聴英語』は共テ向きだと思います。共テって速く読めないといけないから、受けていてよかったと思う。

山田：僕は小学校の頃から『速読解トレーニング教室』をやっていたのもあって、日本語を速く読むのは得意だったけど、英語はやっぱ日本語とは違うから。文法も読み方も、『速読聴英語』は、きちんとやった方がいいと思う。

土井：あと『サテライン』。普段は受けてなかったけど、特別講座で1日で一気に季節講習1講座を受講できるのは良かった。物理とか化学とか。

山田：僕は高3になる前にサテラインの数学『天空へのハイレベル理系数学』を受け始めて。数Ⅲまで一気にやるんだけど、先生が見た目は怖いのに話し方とか教え方がすごく面白くて良かった。

土井：他は面談かな。ずっと渋谷先生にどこを受けるかとか相談できたのはめっちゃありがたかったです。

山田：すごくフランクに話ができるというか。いろんなことを気軽に話ができるのがよかった。

則岡：勉強してて、なんか疲れたとかやる気でないっていう時にいつでも話を聞いてくれて。自習室で疲れた時とかに先生のところに行って愚痴を聞いてもらったりしてた。

大学に入ってからどんなことをしたいと思ってる？

則岡：バドミントンを続けたいですね。新しいラケットを買って。でも部活でっていうよりは、ほかにもいろんなことをやりたいです。

土井：僕は本当に英語の勉強がしたい。留学もしてみたいし。ネイティブの人とも話して英語を使いたい。あとはバイトをしてお金を貯めて、自分が欲しい服を買いたい。

山田：僕はパソコンをちゃんと使いこなせる大人になりたいと思っているので、ExcelとかPowerPointの勉強をしたい。あと趣味の釣りに行きたいです。今までは家から海が遠くてなかなか行けなかったんですけど、大学も山の方だった(笑)だから釣り好きで車を持っている先輩とかに連れて行ってもらいたいなと思ってます(笑)

頑張る後輩へ、メッセージをお願いします。

則岡：僕は高3になって焦ってひたすら量をやってきたけど、インプットの前にアウトプットばかりやってしまっただけで後悔した。だから、がむしゃらに、とかじゃなくて、自分の今やることが身につけているかとかが無駄になっていないかっていうのを意識して、計画的に進めた方がいいかなと思います。インプットとアウトプットのサイクルが大事。

土井：過去問とか模試とかで苦手なところを明確にしてから勉強の方が効率的にできると思います。あと、せっかくACに来ているなら高1とか高2の時から自習室を使った方がいいと思う。僕は高3から自習室に始めたんですけど、勉強しながら足りないところが見つかっていった感じなので。とりあえず自習室に来て座ったら自然と勉強できるから、そこでやらないといけない部分を見つけて、早め

に勉強を始めるといいと思う。

山田：僕も部活していた時は練習した後の2時間くらいしか自習室に来てなかったけど、部活引退してからは学校終わってすぐに来て22時頃まで自習室を使ってたかな。

則岡：あと、高3になってバテずに最後までやり通せるように脳を作っておくのが大事な。

山田：習慣は大事よな。高1高2のうちから少しでもいいから毎日勉強する癖をつけといた方がいいと思う。1時間でも1時間半でも自分で決めた時間を。あと、テスト前の一夜づけは受験には意味ない。

土井：僕は、大学受験は遠い話だと思って、毎日勉強するみたいなモチベは無かった。行きたいところを早めに決めた方がやる気ができるかも。あ、SS(SSH:スーパーサイエンスハイスクール)はちゃんとやってほしい。推薦とか出すときにも書けるし。

則岡：あとは、やっぱり推薦を狙えるくらい成績は取っておいた方がいいと思う。

山田：推薦はチャンスが増えて、余裕ができる気がする。共テで苦手な教科で得点できなくても行きたいところに行けるパターンもあるし。

土井：そういうことを早めに知っておいた方がいいよな。推薦を受けたいと思った時に、成績が足りなくて出せないことがあるから。

編集後記 ~インタビューを終えて~



土井君は対談でも話してくれたとおり、高校進学当初は得意な英語を生かして国際系を志望していました。2年生になる頃に理系に変更しましたが、なかなか学部が決まらず。どうなるか良いように勉強を続け、志望校・学部が定まった頃には十分な学力を身につけることが出来ました。推薦合格者の中では珍しく、二次試験を受けたかった、と言うほどの実力でした。

則岡くんは、リサーチや熟慮を欠かさず、自分が納得できるものをしっかりと選び抜くタイプだと感じています。高1時には「理系かな」と自身の進む方向性を決め、高2時には興味関心を踏まえて「情報系」を選び、高3になってからは「神戸大学工学部(情報知能工学科)」を志望校と決めました。それ以降、とても順調だったように感じています。芯、軸といったものを持っている則岡くんらしい受験でした。

山田君は、3年生の夏くらいまで志望校・学部が定まらない状態が続きました。土井君同様、どこに決まっても良いようにレベルの高い勉強を続けていました。苦手な文系科目と物理で苦戦しましたが、クラスライブで吉田先生・長沼先生に教わったことを実践し、SL特別講座などを活用して頑張ってくれました。

1・2年生では志望校が決まらず面談を続けた3人でしたが、モチベーションが上がらないということは一切なく、毎日自習に来て頑張り続けました。得意分野は自力で、苦手分野はクラスライブ・SL・特別講座をうまく活用し、得点につなげることが出来ました。3人ともバラバラになりましたが、やりたいこと・なりたいものが実現できるように、4年間頑張ってください。

ACターミナル校カウンセリングスタッフ 渋谷勇太